



アメリカ横断 5000km

前代未聞。

ウエマツ



Kawasaki Z1 Challenge

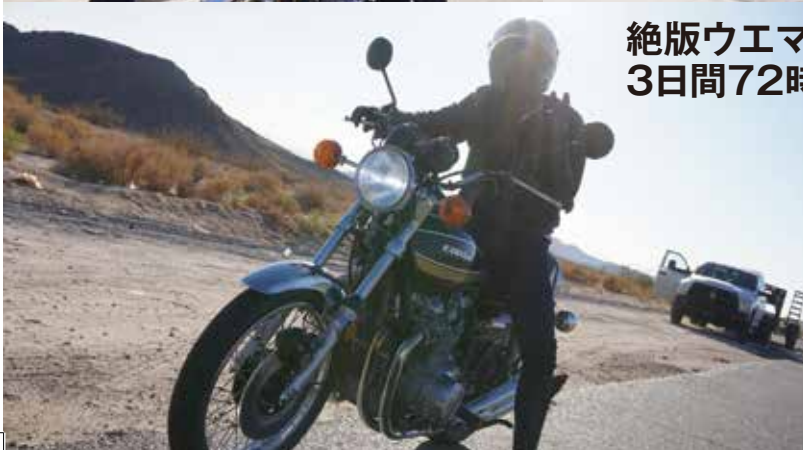
ノンストップでロサンゼルスから
ニューヨークまで4日間で完全走破!!

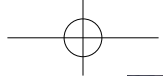
絶版バイクFANおなじみのウエマツが、
往年の名車カワサキZ1で
アメリカ横断5000kmの走破に挑戦した。
絶版バイクによる社員たちとのロングツーリングは、
代表の植松氏がかねてから温めていたもの。
その過酷ながらも楽しい長旅を
社員ライダー達と振り返りつつ、
前編・後編の2回に分けて
道中の様々な出来事をレポートする。



前編 [DAY1] START →ロサンゼルス空港カリフォルニア州→アリゾナ州→ニューメキシコ州
[DAY2] ニューメキシコ州→テキサス州→オクラホマ州→ミズーリ州
後編 [DAY3] ミズーリ州→イリノイ州→インディアナ州→オハイオ州→ペンシルベニア州→ワシントン DC
[DAY4] ワシントン DC →ニュージャージー州→ニューヨーク州← **FINISH**

絶版ウエマツの社員ライダー5人が
3日間72時間の弾丸ツーリング敢行





DAY 1 Z1でアメリカ横断スタート!



[DAY1] ロサンゼルス空港カリフォルニア州～アリゾナ州～ニューメキシコ州

アメリカ西海岸のカリフォルニア州ロサンゼルス空港から郊外へ20分ほどでインターステーツ40号線、あの有名なルート66の新道を東へ走り出す。

ライダー交代は5人でチャレンジ

1. 三浦 (ウエマツ社員)
2. 石戸 (ウエマツ社員)
3. 池上 (ウエマツ社員)
4. 植松忠弘 (ネットギア撮影)
5. 植松忠雄 (ウエマツ社長)



映画『ガムボール』を観てアメリカ横断の旅を夢見た

まずアメリカ横断に挑戦する今回のテーマについて、株式会社ウエマツ代表取締役社長の植松氏に話を伺った。

「自分はオートバイで、ヨーロッパやオーストラリアなど世界中を走って来ました。約4年前にはギリシャ・アテネからルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、オーストリア、フランス、イタリア、モナコ、スペインまで10ヶ国を10日間で回って5000kmです。その友達5人でヨーロッパ旅したのを皮切りに、世界各国をバイク旅しています。去年はオーストラリアの

メルボルンからケアンズまで、南から北へ縦断しました。でも、やっぱり夢は、アメリカ横断でした。その原因は、映画『キャンノンボール』です。その前の映画『ガムボール』を観て、フォード・コブラとフェラーリ・デイトナの競争がカッコイイんですよ。ニューヨークを目指して、いつか俺も走りたいて憧れましたね」

バイクでアメリカを横断したい。もちろん、今なら自分だけでも出来る。だけど、それじゃ面白くない。現在、大勢のバイク好き社員を抱えるウエマツの代表という立場も考えたとき、目標に向かって試練を乗り越える貴重な経験、様々な体験、個人ではなかなか果たせない夢のアメリカ横断5000kmを社員たちと共有し、他では味わえない感動を与えたい。今回のチャレンジは、これを第一に考え、社長がすべてのプランを組んでプロジェクトを進めた。

アメリカ横断に使うバイクは、やはりカワサキZ1だ。現地でも仕入れを行っているウエマツだけに、ロスにある数多くの車両の中から、今回のチャレンジ用に茶玉のフルノーマルのZ1を用意。現地では簡単な整備のみで

を進めた。

メンバーに聞いた

アメリカ横断 Q&A

Q1. ロサンゼルスからニューヨークまで5000kmを、できるだけ止まらないで走る意味は？



A アメリカ横断するなら短期間で、絶版バイクで走りたかった。なぜなら社長は納車4ヵ月待ちの多忙な会社を巻き込み、勤務中の社員から賛否両論に頭を悩ませ、仕事を空けてバイク旅する彼らを休ませたくなかったから（笑）。実際に彼らは有給休暇を使いながらも、行けない他の社員に配慮して早朝や残業の勤務でカバーした。

Q3. 今回の相棒バイクZ1の仕様は？

A ウエマツが現地アメリカで仕入れたカワサキZ1は、茶玉カラーのフルノーマル仕様。キャブもノーマルで、セッティングは特に何もできない。同行するサポートカーの荷台に、スペアバイクのZ1も載せて万全の体制だった。



Q4. 特別なツーリング装備は？



A ハンドルにスマホ2台を装備した。1台は専用iPhoneを地図ナビで固定し、もう1台はライダー個人用で付け替える。ヘッドライトは明るいLEDバルブに換装し、夜間走行の視認性もアップさせた。

Q5. 天候や気温の変化は？

A 道中は雨に降られることなく、終始ドライ路面で走れた。初日のロサンゼルス空港からアリゾナ砂漠は気温25度、クルマ部隊がTシャツ&短パンで過ごせるぐらい暑かった。約800km走った夜に、ロッキー山脈の麓で気温4度まで冷え込む。1日で20度もの寒暖差を体感したのも広大なアメリカらしく、日本ではありえない貴重な経験だった。



旅の相棒は…茶玉のZ1

Q2. LA~NYまで5000kmを何日で横断する？

A 3日間72時間で5000kmを走破する計画。ライダー1人2時間で125マイル（200km）×2スティントで250マイル（400km）を5人で交代して、1人2回で500マイル（800km）以上を走るローテーションを組む。同行するサポートカーのドライバーも交代して、他の3人は車中泊で仮眠・休憩を取りながら移動。走り終えてホテル後泊で、全4日間のアメリカ滞在だった。

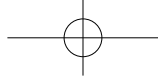
10/7(月)12時出発→10/10(木)12時到着!



5000km走破を目指す。これは、程度の良い個体の仕入れに力を入れているウエマツが選ぶ車両は、簡単なメンテナンスで十分な性能を発揮してくれる。そんな証明の場でもあった。

絶版バイク愛あふれる社員が大勢いるウエマツ。同行したい、挑戦したいという社員も数多く、その選出は悩みどころだった。そこで、今回は入社3年は頑張っ

て仕事すると約束した若手社員から選出。なかなか自分だけでは経験できない長旅を5人で共有し、それを目標に協力し、成し遂げる。そんなウエマツの社風が、社長も夢だったアメリカ横断のバイク旅を社員たちと共に楽しみながら過ごすというプロジェクトへと発展。ロサンゼルスからニューヨークまでの大陸横断5000km走破がスタートした。



[DAY2] ニューメキシコ州→テキサス州→オクラホマ州→ミズーリ州

絶版バイクZ1 旅の2日目は、アメリカ大陸のど真ん中をひたすら走り続ける。朝昼の景色を眺める爽快感とは裏腹に、夜間はメンバーに疲れも見え始めた。



Q6. 初めてのアメリカ走行、いざ走り出した感想は？



A アメリカの大地で景色を眺めながら走る気分は最高! でも、まだ10月で防寒着を持って行かなかったのが、昼間は暖かなくても夜間が寒く体の芯まで冷えて震えた……。最低限の電熱グローブは持って来たので、電池を交換しながら温めた手でアクセルをひねり何とかナイトランを耐えた。



DAY2

2日目で中間地点へ到着!

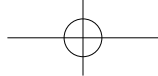
Q7. フリーウェイの制限速度は？

A ロサンゼルス空港から郊外へ20分ほど走ると、インターステーツ40号線(あの有名なルート66の新道)は時速75マイル(120km/h) ~ 65マイル(104km/h) ~ 55マイル(88km/h)と区間によって変わる。旧車Z1だけにエンジンを労わりながら5000km完走を目指すため、ほぼ時速60マイル(およそ100km/h)をキープし制限速度を守って走り続けた。

Q8. 給油したガソリンスタンドはリッターいくら？

A アメリカのガソリンスタンドは、リッター約70 ~ 80円と日本の半額で安い。5000kmの道中で給油7回、100ガロン(400リッター)を使った。





Q9. 5000km走破した 平均燃費はリッター何km?

A 旧車のZ1だけに燃費は良くなくて、ガソリン14ℓで150km走ってリッター10～12kmぐらい。1回の満タン給油で距離200kmぐらい走れるけれど、ガス欠までリスクを冒さずに150kmほどでマージンを見ながら走った。リザーブになったらライダーが合図して、次のインターを降りてガソリンスタンドで給油。念のためガソリンの携行缶も、20ℓ×2缶をサポートカーに積載した。ちなみに、クルマは満タンで500km走れた。



Q10. 中間地点まで走って来た感想は?



A 止まるのはライダー交代と給油だけで朝・昼・夜も走りっ放し、とにかく前へ進む。休憩・仮眠は走るサポートカーの車内で、食事も給油と同時にガソリンスタンドのハンバーガーやホットドッグばかり、ひたすらスティックにゴールを目指すだけだった。初日は車内でアイマスクしてもあまり寝れなかったけれど、2日目から疲労で泥のように眠れる心身になった。



DAY 1



DAY 2



【動画】

UEMATSU Channel / ウエマツ・チャンネル登録ヨロシク!

【Z-1】

弾丸5,000km アメリカ横断企画【24時間ノンストップ】を要チェック!!

次号

後編のDAY3~DAY4は、来春4月号に続く……

ウエマツ社長のポリシー
夢の有言実行を叶えたい

「最近の若者は……って言いたくなるオヤジ世代から見ると、仕事に対するモチベーションが低いし、遊びも娯楽の選択肢が今いっぱいある。スマホ1台あれば、ネットやSNSを見て1日中だつて過ごせる。でも僕らの時代は、バイクやクルマしかなかった。まだ若い彼らもバイクが好きなら、好きなバイクに携わる仕事を応援したいし、努力して夢を現実にする楽しさも教えたかった」

そう社長は言いながら、もし彼らが前述した3年の約束を前にウエマツを去ってしまったら、自身はアメリカ横断を決意していた。ウエマツを信じてくれるユーザーに対して期待を裏切らない、何よりも自分に対して嘘をつかない。そして、石の上にも3年。我が子ほど年の離れた若い社員が、好きなバイクを仕事に汗を流して、社長との3年の約束を守り、絶版バイクでアメリカ横断の旅に出た。彼らの夢は、まだ道半ばにして絶版バイク旅は後編に続く。

後編は中間地点のインディアナ州から、ニューヨーク州のゴール地点までレポートお楽しみに!